

議案第 1 号

様々な地域課題に取り組む市民公益活動を支え、共に動く

福島と隣り合ういろいろなまちで、
さまざまな市民公益活動を行う団体が、地域を超えて支え合いながら、
自立・自律の心意気を持って活動を行い、
そこに集う人たちも安心して活動できる—そんな市民社会の応援団になりたい
と願っています。

2012 年度

(2012 年 10 月 1 日～2013 年 9 月 30 日)

特定非営利活動法人 **市民公益活動パートナーズ**

事業報告書

目次

2012 年度事業報告書

2012 年度活動計算書・貸借対照表・財産目録・附記(重要な会計方針等)

監査報告書

2013 年事業計画書(案)及び活動計算書(案)

資料—当法人及び活動掲載記事等

ご挨拶にかえて―2012 年度をふりかえって

特定非営利活動法人 市民公益活動パートナーズ 代表理事 古山 郁

はじめに、東日本大震災及び原発事故から早くも3年目を迎えましたが、未だ避難生活を強いられる浜通りの被災者の方々、そしてあの大きな災害で家族や親しい方々を亡くされた方々に対して、心からお見舞いを申し上げます。

私どもは、NPO 法人の登記を済ませ本格的に活動を開始した矢先に大震災が起き、直後から県北地域に避難されている方々を中心に復興支援活動に携わってきました。以来、中間支援組織として避難元と避難先地域とのコミュニティ再生や編み直し、仮の暮らしを続ける避難された方々の生活再建支援等に取り組んでいます。

この3年に亘る復興支援活動を振り返ると、もともと地域課題として存在していたさまざまな問題がこの大災害によって加速度的に表面化しているように思えます。福島への復興への長い道のりを歩みながら山積する課題を解決していくためには、私どもが組織として十分な体力と知恵を持たなければなりません。そういったことから2012年度は組織基盤強化のための事業や取り組みに多くの時間を費やしました。

2013年度も更にその強化を図っていきますので、会員みなさまには今後、事業や事務局のサポートをお願いしたり、助言を仰いだりすることもあるかと存じますが、新年度も変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2012 年度の市民公益活動パートナーズについて

【運営について】

1. 会員

2013年9月末時点で2名増え、現在20名です。

※2011年9月末時点では会員(設立発起人)は13名/2012年9月末時点では18名

2. 寄付

活動全般に対する寄付及び東日本大震災・原発事故からの復興支援活動の支援に対する寄付を1,183,500円頂きました。

3. ボランティア

2012年度も4月に桜の聖母短期大学(ボランティアセンター)と福島学院大学駅前キャンパス(学生課)の学生に対し、ボランティアを呼びかけ13名の登録を行いました。(一昨年度から参加頂いている社会人を加えて14名が活動しています)

4. 事務局職員

2012年度決算時点の有給常勤スタッフは4名。有給非常勤スタッフは2名。

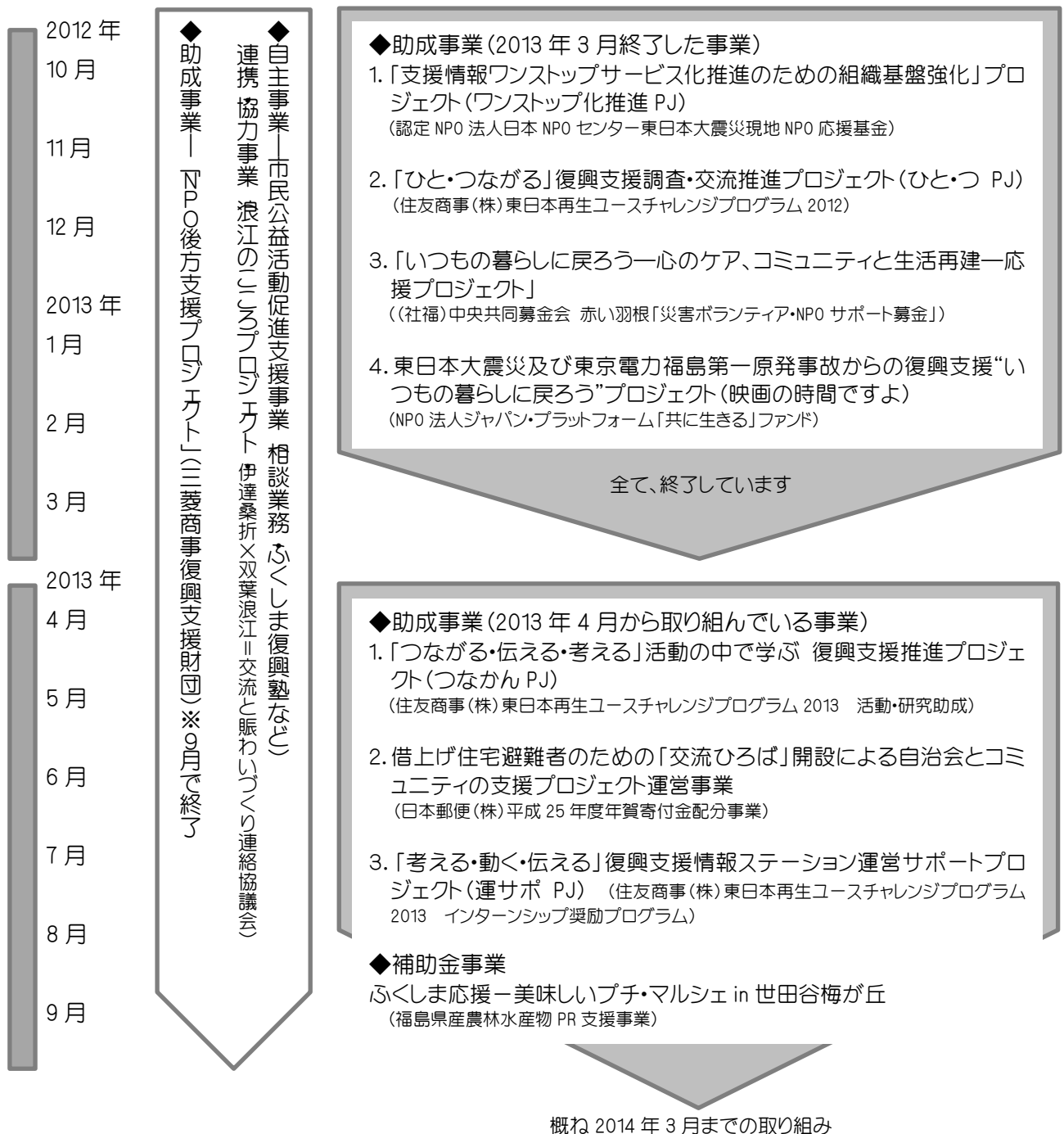
加えて事業に従事する学生スタッフ3名の計9名です。(2011年度と比較し、ほぼ同数です)

【2012 年度事業について】

下記の図は、時系列に 2012 年度事業を示したものです。

自主事業及び連携・協力事業と、一部の助成事業は年度 1 年間を通して取り組みました。

また助成金・補助金交付事業は、上半期(2013 年 3 月末)に終了した事業と、下半期(2013 年 4 月から)新たに取り組んでいるものとに、概ね分かります。



事業の取り組みについて

2012 年度事業計画は、定款に基づいた市民公益活動促進支援に取り組むために、大きく 3 つの取り組みに分け、さらにそれらに重ね合わせるように、復興支援活動への後方支援活動を加え、組織基盤強化や当法人の強みにつながるような取り組みを中心に進めました。

1. 相談・助言

本来は自主事業として取り組んでいるが、2012 年 6 月～2012 年 9 月まで、期を跨いで約 1 年 3 ヶ月の長期間、(財)三菱商事復興支援財団の助成を受け、相談及び研修等に係る殆どの経費をサポート頂き、平均、週 1 回ペースで活動を行うことが出来ました。

NPO よろず応援・相談(萬屋)41 件、自立・運営セミナー(寺子屋)13 回、オーダーメイド支援(誂え屋)7 件

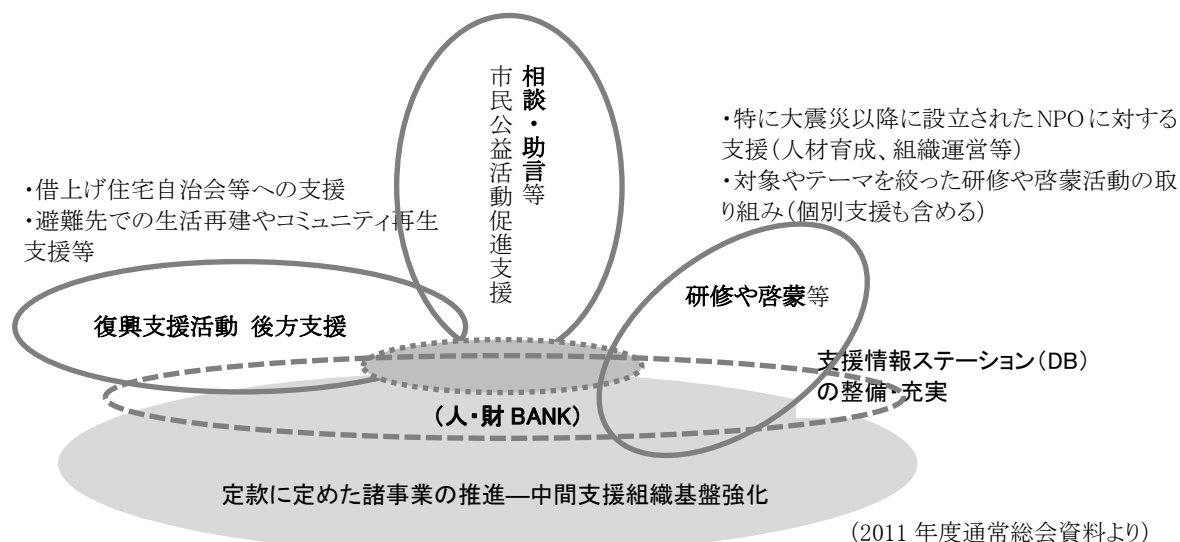
2. 研修・啓蒙

・組織内の取り組みとして、事業に関わるスタッフ(特に学生)に対し、NPO や組織運営に関する理解を深めるための研修を折々に行いました。

・NPO 法人や市民活動団体、地縁団体等に向けては、「ふくしま復興塾」を自主事業として継続した他、助成事業では、上半期は「いつもの暮らしに戻ろう応援プロジェクト」、下半期「自治会とコミュニティの支援プロジェクト」の取り組みの中で、主として組織運営やコミュニティサービスビジネスに関する啓蒙活動や研修を行うことが出来ました。

3. 調査・研究、情報受発信

特に、2011 年度下半期から取り組みが始まった、双葉郡浪江町からの避難者を支援する活動団体及び福島県及び近隣県の隣り合う地域等における復興支援活動団体の調査には、多くの力と時間を費やしました。その結果、HP 上に『復興支援情報ステーション』を公開し、市民公益活動 DB(人・財バンク)の基礎をつくることが出来ました。



- (1)市民公益活動及び組織運営全般に係る相談・助言・研修等に関する事業
- (2)市民公益活動の普及啓発に係る広報、人・財登録及び情報提供等に関する事業
- (3)市民公益活動に係る会計基準及び評価に関する普及啓発・調査研究事業

- (4)監査・監事業務の啓蒙事業
- (5)前各号に係る協働の企画提案・ワークショップの企画運営・情報の収集及び発信に関する事業
- (6)その他、第 3 条の目的を達成するために必要な事業

＜自主事業＞市民公益活動促進支援

1. 市民公益活動及び NPO 相談

目的: 市民活動団体の立ち上げや NPO 法人設立相談をはじめ、助成金情報の提供や申請書へのアドバイス、NPO 法人の運営など、日頃の活動に伴う様々な問合せ及び相談に対応しています。同時に、この取り組みを通じて、中間支援組織としてのスキルアップを図りつつ、よりの確な業務遂行を目指しています。

★2012 年 6 月から(公益財団)三菱商事復興支援財団の助成を受けて、「NPO 後方支援プロジェクト」として、これらの相談業務や人材育成、NPO 組織基盤強化に関わる助成事業として 2013 年 3 月まで取り組みました。

一旦、活動を終了し事業報告は行いましたが、2013 年 9 月 30 日までの約半年間の延長継続が認められ、更に取り組みました。なお、詳細については、ふりかえりも含めて後述する助成事業の項目をご覧ください。(14～15 ページ)

2. ふくしま復興塾

目的と主な内容: 東日本大震災・津波災害及び原発事故からの福島県における復興活動を通じ、これからの地域づくりやコミュニティ再生を実践・支援しようとする NPO 法人や市民活動団体等の有志の集いとして、2010 年 5 月に立ち上げました。(以下、復興塾)

被災地や市民の支援に関するニーズの把握、復興に向けての情報集を行い、時には緩やかな連携を視野に入れながら、毎回のテーマに沿った話題提供者を招き、話を聞いたり、共に解決策を考えたりしながら、具体的な復興活動へのきっかけとなることを目指しています。

ふりかえり: 2012 年度の取り組みは、

6 月 19 日に開催した vol.9「NPO 法人の責任と役員の個人的責任」

講師: 当法人理事 松田英明さん 参加: 8 名(NPO 等団体 7 名、マスコミ 1 名/事務局 3 名)のみに留まりました。

その理由として、復興塾の役割の変化が考えられます。NPO 団体や復興支援活動団体は、震災発生直後から取り組んだ緊急性の高い、多種多様な復興支援から、自らの活動分野や専門性を活かした支援活動へと移行する傾向にあるように見受けられ、復興支援活動団体の広範囲に亘るネットワークづくりや情報交換に対するニーズは以前より少ないように感じられます。

このことから復興塾そのものの在り方や対象者、提案するテーマ等の見直しを行う必要があると考えています。

＜連携・協力事業＞

1. 「浪江のこころ」プロジェクトへの取材協力(浪江町広報誌・特集「浪江のこころ通信」原稿制作)

目的と内容: 双葉郡浪江町の月刊広報誌「広報なみえ」の特集ページ「浪江のこころ通信」は、東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会(仙台市、編集責任者:高崎経済大学櫻井研究室)を中心として全国の NPO や大学、復興支援員等が協力・連携し取り組んでいます。福島県内外に避難している浪江町民を訪ね、2011 年 3 月の災害発生当時の避難の様子や今の暮らし、浪江町や故郷の人たちへの思い等をお聞きし、記事を作っています。

当法人では、県内の取り組み団体の窓口である NPO 法人寺子屋方丈舎(会津若松市)との協力体制のもと、県北地域(伊達郡、福島市、二本松市、安達郡、本宮市)に避難する浪江町民への取材を第 17 号～第 28 号までの取材(12 回)を行いました。(月平均 1 名程度)

また、2013 年 7 月からは、丸 2 年前(震災直後)に取材した方を再び訪ねる「再会・浪江のこころ」シリーズが開始。13 年 9 月号では二本松市に住む女性に、当法人として初めて取材を行いました。



成果:2011 年 7 月から毎号取材活動を積み重ね(通算 26 回)、当法人の活動が浪江町民にもかなり知られるようになってきました。

ふりかえり:被取材者からじっくり話を聴くことによって、日頃活動するエリア(県北方部北部)や、頻繁にコミュニケーションをとっている方々とはまた違った課題や支援ニーズを知ることが出来たり、他の復興支援活動を進める上で被取材者がキーパーソンになったりする等、有意義な取り組みになっています。

2. 伊達桑折×双葉浪江＝交流と賑わいづくり連絡協議会―事務局業務と事業への取り組み

2010 年度福島県補助金交付事業※から取り組み始め、2011 年度、2012 年度も協議会事務局を務めつつ、継続して事業に取り組んでいます。(おたがいさま新聞の発行やコミュニティサービス・ビジネス(CSB)支援等、主として生活再建や地域コミュニティ支援活動)

<助成事業>

1. 認定 NPO 法人日本 NPO センター 東日本震災現地 NPO 応援基金

支援情報ワンストップサービス化推進のための組織基盤強化(通称 ワンストップ化推進PJ)

目的: 東日本大震災・原発事故からまもなく1年が経過するにも関わらず、帰還の目途は未だ立たず、避難住民はもちろん避難受入地域もまた、新たな地域コミュニティづくりをはじめとした困難な課題に直面しています。こうした課題解決の一つとして、浪江町民同士を長期に亘って繋ぎ続ける仕組みが必要であり、浪江町をはじめとする被災地の復興支援活動を行っている団体等の情報集積を行うことにより、必要な支援情報がワンストップで得られ、ニーズに合った支援活動や団体のマッチングを行う「情報ステーション」を設けることを目的にしています。

◆事業実施期間:2012 年(平成 24 年)4 月 1 日～2013 年(平成 25 年)3 月 31 日

◆事業費:394 万円→決算額 3,692,975 円 (247,025 円返金)

◆事業のための人材費確保:3 名(福島事務所・常勤 1 名、現地スタッフ 2 名)

◆主な事業内容や目標

(1) ①福島県・県北地域を中心に浪江町民等を支援する活動団体の情報収集と発信

支援活動を継続的に行っている県内外の支援団体(個人)を取材し、支援情報のデータベースづくりを行うこと(事前調査 100 団体、本調査・DB掲載 50 団体)

②「浪江のえがお」プロジェクト(支援ニーズに対する取材活動)

浪江町民の「今」(顔と声)を集め、点在して避難生活を送る町民の心をつなぐ支援を目指し、「おたがいさま新聞」で紹介すること

(2) 「支援情報ステーション」の基盤整備

Web データベース「情報ステーション」を開設し、情報の更新を継続的に行うこと

成果:避難する浪江町民を支援する復興支援活動団体を直接取材することにより、現場の声に接することが出来たこと。加えて、活動団体のデータベースの初期整備を行うことが出来ました。

ふりかえり

1. 組織基盤強化の目標(達成の具合)

・主として県北地域に避難する浪江町民に対する復興支援活動を継続して行う、県内外の支援団体(個人)の事前調査は 103 団体の個人・団体。本調査は 65 団体 で目標を達成しました。2013 年 3 月にはそれらの団体概要と活動状況を HP 内の DB「支援情報ステーション(以下、ST)」(2012 年 8 月に設置)に掲載しました。

・復興支援団体のDBやSTの整備が実施計画より遅れ、情報発信の基盤づくりの達成度は50%程度に留まったが、相談業務の件数が増え、NPO活動促進支援活動に活かされました。

2. 組織基盤強化によるメリット(効果)

・本調査(支援活動の情報収集)は、各団体(個人)への取材活動を通じて実施。このことにより、当法人の認知度のアップや支援活動団体とのコミュニケーションが生まれ、中間支援組織の広報的な役割を果たした。さらに、活動を通じて避難元及び避難先自治体や県市町村社会福祉協議会等との連携や関係性が深まり、NPOに対する信頼度の向上につながったようです。

・この調査と並行し、「浪江の笑顔」プロジェクトを実施。避難生活を送る町民同士をつなぐと共に、今の暮らしに対する支援ニーズの把握につながることができました。

3. 今後に向けた組織基盤強化に関する課題や見通し

・情報受発信の基盤強化—支援活動団体に対する調査やSTの整備・拡充、ST 窓口機能の充実等、継続的かつ発展的な取り組みが求められます。

・人材育成の基盤強化—復興支援活動における団体間のコーディネートやマッチング等、ワンストップサービスを行うために必要な人材の確保や、事務局スタッフのスキルアップが重要かつ急務です。



事務所入り口脇に設けた情報掲示板



「おたがいさま新聞」紙上で紹介した「浪江の笑顔」
(2012 年度は 44 人を掲載)

2. 住友商事(株) 東日本再生コースチャレンジ・プログラム 2012

「ひと・つながる」復興支援調査・交流推進プロジェクト(通称 ひと・つPJ)

目的: 東日本大震災・原発事故災害からの復旧・復興では、多くのNPO等の団体がそれぞれの専門性を活かして様々な支援活動を行っています。その中で、学生団体 福島大学学生ボランティアセンター(以下、福大災ボラ)は学生の視点と若者らしいフットワークで支援活動を行っています。

しかし、福島県内や隣り合う地域を見ると、震災復興支援という同じ志を持ちながら、各団体の組織概要や活動の情報が集約されておらず、特に福島県内や県外に避難する県民を支える活動が見え難いのが現状です。支援が長期化する中、ヨコとタテのつながりが今後一層求められると考え、広域の中間支援組織である当法人と福大災ボラがコラボしながら調査事業を行い、「点を面に」することを目指しています。継続した復興活動に対する問題点や課題を広く共有しつつ、NPOとNPO、学生の顔の見える連携を図ることによって、今後の支援活動に活かすことも目的にしています。

◆事業実施期間:2012年6月1日~2013年3月31日

◆事業費:298万円→決算額 2,673,750円 (306,250円返金予定)

◆事業のための人材費確保:パートナーズ2名・学生スタッフ4名(月10回~12回程度)

◆主な事業内容や目標

(1) 福島県(県北地方、県中およびいわき地方の一部、相双地方)、山形県米沢市周辺、宮城県白石市等仙南地域で継続的に復興支援活動に直接的、間接的に関わるNPO等活動団体の調査

・対象エリアの現状を把握するため、事前調査100団体、さらに、詳細な調査票に基づいた取材による本調査は50団体を目標とすること

・ワンストップ化推進PJが手掛ける「情報ステーション」への情報アップを図れるよう、それらの調査結果をデータ化すること

(2) NPO-学生のネットワークづくり(場と機会の提供)

(3) (NPO-学生ネットワークの支援企画として)シンポジウムの開催

事業終了時期に、報告を兼ね、調査や支援活動を通じてコミュニケーションが生まれた各種団体との交流を深めるシンポジウム等を開催すること

成果:学生が自ら県内外の復興支援活動団体に聞き取り調査を行い、活動について直に話を聞く機会とNPOとのコミュニケーションを図ることが出来たこと。更に、共に事業に取り組むことを通じて、当法人と福大災ボラとの関係性が深まりました。

ふりかえり(PJ 学生メンバーによる報告から)

■取り組みの実績と成果

1. 調査事業に関して

- ・事前調査と本調査及び DB 化共に、目標を達成できました。(事前調査 169 団体、本調査 50 団体)
- ・反面、支援活動情報のデータ化及び調査報告書(年次レポート)の作成が大幅に遅れました(2013 年 4 月)。調査後のフォロー、例えば取材先団体への確認やメンバー間の申し送りなど、成果のまとめ段階での作業体制が不十分だったと考えられます。
- ・調査のアポイントやインタビュー等)を通じて、社会人としてのマナーが身につきました。さまざまな団体に出会うことで新たな価値観や多面的な視点などを学びました。

2. 学生、NPO とのネットワークづくりに関して

復興支援活動のネットワーク会議等には積極的に参加し、NPO との関係性は深めることが出来たが、学生と NPO との交流づくりの取り組みはなかなかうまくいきませんでした。

3. シンポジウム(2013 年 3 月 2 日/福島テルサ)

70 名を超える支援団体や個人が参加しました。反面、企画に着手する時期が遅かったため、かなりタイトなスケジュールになり、準備不足となったことが反省点です。

■今後の課題(PJ 学生メンバーによる報告から)

- ・調査地域として当初計画していた宮城県仙南地域が、今後の取り組みとして残りました。
- ・全体計画の遂行のために、メンバー間の情報共有やスケジュール調整、引継ぎ等、事業に確実に取り組むチーム体制の強化が必要です。
- ・事業を通して NPO の多種多様な組織や活動を学んだが、それを福大災ボラの組織力向上や活動計画、支援活動プログラムの開発等に活かすには至りませんでした。
- ・県内の他の学生ボランティアセンターとの連携を促進させる計画でしたが、今後の取り組みとして残りました。



復興支援活動団体 調査・取材(山形市にて)



2013 年 3 月 2 日
シンポジウム・パネルディスカッション

3. (社福)中央共同募金会 赤い羽根「災害ボランティア・NPO サポート募金」助成事業

いつもの暮らしに戻ろうー心のケア、コミュニティと生活の再建ー応援プロジェクト

(通称 コミュプロ)

目的: 原発事故からの避難生活の長期化と震災以降の避難元の地域住民同士や避難受入地域における新たなコミュニティづくりが急がれている中、故郷に帰れないまま不自由な生活を送る方々の精神的な負担は計り知れず、その心のケアとなる安らぎや潤いを提供することや仕事づくりの足掛かりとなる活動を支援することを目的にしています。

さらに、同じ地域の住民が仮設住宅や借上げ住宅に点在して暮らしている、特に浪江町民に対し、草の根的かつ互助的な支援情報や町民の様子を、活字メディアで伝えること(おたがいさま新聞の発行)を通して、町民の心をつなぎ、コミュニティを育むための支援を行うことも目指しています。

★この事業は、2011年8月～2012年3月まで取り組んだ「新しい公共」支援事業「伊達桑折×双葉浪江＝交流と賑わいづくり応援プロジェクト」において、支援ニーズの多かったプログラムを中心に、それらを発展させた事業内容で取り組んでいます。

- ◆事業実施期間:2012年4月～2013年3月(この期間の活動11ヶ月分)に対して助成)
(採択は6月でしたが、活動に取り組んでいたため、5月に遡って必要経費が認められました)
- ◆事業費:280万円→決算額 2,541,059 円
- ◆事業のための人材費確保:2名(事業の事務と業務の一部を、他の事業と連動しながら従事)
- ◆主な事業内容:以下の3つの柱で取り組みました
 - (1)生活再建支援ー「お母さんの小商い応援プロジェクト」(活動団体やCBS活動支援)
 - (2)心のケア支援ー“癒しの種”プロジェクト(本箱PJや映画上映会、まち歩き等)
共通の目標として、故郷や震災以前の住まいに帰れないまま、不慣れな地域で避難生活が続けるストレスは計り知れず、心のケアとなる安らぎや潤いを提供し、仕事づくりにもつながるような生き甲斐づくりを提案し、支援すること
 - (3)地域コミュニティ支援ー「おたがいさま新聞」拡大プロジェクト
復興住宅への集団移転或いは帰町など、生活再建に向けた次の段階の目途が立つまで、広域に点在して避難生活を送る浪江町民をつなぎ、かつ避難先地域とのコミュニティを育むための支援を行うこと

成果:生活再建支援はお母さん方の手づくりグループ活動支援を県北地域全体で取り組むことが出来ました。また、「おたがいさま新聞」は創刊から3年目に入り、配布エリアは県北地域南部へも広がり、認知度も高まってきました。

ふりかえり

■取り組みの実績と成果

1. 生活再建支援（お母さんの小商い応援PJ）

・桑折軽トラ市出展の支援（伊達郡桑折町）

当法人が軽トラ市を運営する桑折町商工会と年間契約をし、出展の場を提供。手づくりグループが自主的に展示・販売を行う場を提供することが出来ました。（現地スタッフが出展のサポートも行っています）

・「手仕事トークカフェ」の開催（桑折町、福島市笹谷東部及び南矢野目応急仮設住宅）

仮設住宅集会所を交流と活動の拠点として活動する手づくりグループに対し、グループ同士の交流を図る機会を提供。結果、他所での講師を依頼する等の動きが生まれました。

・「福結びストラッププロジェクト」支援（福島市笹谷東部及び南矢野目、北幹線応急仮設住宅）
福島市観光コンシェルジェ女子チームが考案した「福結びストラップ」づくりを、浪江町から福島市に避難する女性たちと連携して取り組むため、講習会を開催。避難先と避難受入地域との交流とモノづくりを支援しました。（この活動は今年度で一旦終了）

・「浪江 手づくり見本市」開催

（3月2日「ひと・つPJ」シンポジウムと併催）

県北地域全域の浪江町から避難している女性たちのグループ11団体（本宮市、二本松市、福島市、伊達郡）が出展。活動参加者はもちろん、家族や友人知人約200名が来場し、大変賑わいました。



「福結び」講習会の様子

2. 心のケア支援―“癒しの種”プロジェクト（本箱PJや映画上映会、まち歩き等）

・本箱PJ（全国から寄贈された本を仮設住宅集会所等へ配本、交換）

県北地域北部の浪江町の仮設住宅集会所各所には、既に本が行き渡っています。また、福島市笹谷には仮設浪江町図書館「浪江 in 福島ライブラリーきぼう」が設けられているが、利用者が大変少なく、本離れの傾向にあることなどから、現在、活動を休止しています。

・仮設住宅集会所での「映画上映会」（福島市笹谷東部仮設住宅での活動）

引きこもりがちな高齢者や一人暮らしの住民に外出と交流の機会を創るために、月1回を目安に、継続して開催しました。

・桑折学ちょこっと散歩（桑折町）

避難受入地域を知ることによって交流を促進する目的で、桑折町民に案内人を依頼し、仮設住宅住民との散歩を継続して実施。時折、桑折町社会福祉協議会ボランティアセンターから昼食や差し入れの提供を頂くこともあり、活動はすっかり町内に定着してきました。

3. 地域コミュニティ支援

「おたがいさま新聞」拡大プロジェクト

発行回数:8 回/発行部数:1,500 部(通巻 6 号まで)→4,000 部(通巻 7 号から 13 号まで)

2011 年 11 月創刊当初、桑折町のみの配布が、県北地域全域の浪江町仮設住宅自治会を通じて住民の方々へ配布するケースも徐々に増え、発行部数は約 2.5 倍となりました。

■今後の課題や見通し

- ・浪江町等の女性による手づくりグループへの支援は、生活再建とコミュニティ再生の支援として、今後も積極的に機会や場の提供を継続します。
- ・心のケア支援における、仮設住宅を中心とした映画上映会や散歩などの活動を、借上げ住宅に住む避難者の方々にも広げていけるよう、仕組みを作りたいと考えます。また、このような活動を自分たちで積極的に行えるような働きかけをしていきます。
- ・地域コミュニティ支援として制作する「おたがいさま新聞」が、今後も避難された方々同士をつなぎ、かつ避難受入地域とのまちづくり活動に結びつくような支援となるよう、継続して発行していきます。そのためには、財源確保が最も重要であり、今後は「指定寄付」などの仕組みづくりを行いたいと考えます。

赤い羽根「いつもの暮らしに戻ろう—こころのケア、コミュニティと生活の再建—応援プロジェクト」
生活再建支援(お母さんの小商い応援PJ)・心のケア支援(“癒しの種PJ)主な実績

桑折学ちよこつと散歩

日付	場所	活動/支援団体等 内容	参加人数
2012年 10月25日(木)	伊達郡桑折町 桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	桑折ちよこつと散歩 桑折町本町地区、西町地区 案内人:桑折御蔵スタッフ(川名 静子さん、二階堂博子さん)	20名
11月28日(水)		桑折ちよこつと散歩 桑折町西町地区、陣屋の杜公園 案内人:桑折御蔵スタッフ(木村美智子さん)	24名
2013年 1月4日(木)		桑折ちよこつと散歩 諏訪神社へ初詣	9名
2月28日(木)		桑折ちよこつと散歩 桑折町北町中心の雞めぐり	25名
			延べ78名

映画上映会

日付	場所	上映作品	参加人数
10月26日(金)	福島市笹谷東部応急仮設住宅東集会所	「男はつらいよ 柴又より愛をこめて」	16名
11月30日(金)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	「ブラックレイン」	16名
12月21日(金)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	映画上映会「マンマミーア」	17名

※2013年1月～3月は、「映画の時間ですよ」プロジェクト(とも生きファンド助成)により、桑折町、福島市2ヶ所の仮設住宅集会所で開催しました。

交流やコミュニティ・サービス・ビジネス(CSB) 支援			
日付	場所	活動/支援団体等 内容	参加人数
2012年 10月9日(火)	福島市北幹線応急仮設住宅南集会所	北幹線応急仮設住宅手づくりの会見学会	25名
11月2日(火)		こころ結びPJ講習会 (南福島市観光コンシェルジュ女子チーム、南喜代子先生)	25名
11月20日(水)		こころ結びPJ講習会	25名
11月25日(日)	桑折町	桑折宿軽トラ市(コスモス手づくりの会出展販売)	約40名
12月4日(火)	北幹線応急仮設住宅南集会所	こころ結びPJ講習会	25名
12月29日(土)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	ゴスペルコンサート(安倍由美子さんと仲間たち)	約30名
2013年 1月21日(月)	福島県文化センター	福島市なみえ会「新春歌い初め♪浪江の集い」 (ゲスト:中野壽美さん)	約150名
3月2日(土)	福島テルサ	浪江手づくり見本市	約200名

地域コミュニティ支援(「おたがいさま新聞」発行と配布 実績)				
発刊月日	新聞	主な配布先	配布部数	
	2012年5月～9月 おたがいさま新聞 通巻第6号～第9号 ※2011年度事業報告	伊達郡桑折町内(町内全戸、役場、公民館、郵便局、銀行、スーパー、商店等)、 福島市内、二本松市、本宮市、川俣町の応急仮設住宅借上げ住宅自治会、 支援活動情取材者等		↑
2012年 10月30日	おたがいさま新聞2012第5号(通巻第10号)		3,870部	赤い羽根による 助成
12月19日	おたがいさま新聞2012第6号(通巻第11号)		3870部	
2013年 1月31日	おたがいさま新聞2013第1号(通巻第12号)		3,970部	
3月25日	おたがいさま新聞2013第2号(通巻第13号)	伊達郡桑折町内(町内全戸、役場、公民館、郵便局、銀行、スーパー、商店等)、 福島市内、二本松市、本宮市、川俣町の応急仮設住宅借上げ住宅自治会、 支援活動情取材者等	4,000部	↓
5月31日	おたがいさま新聞2013第5-6月号(通巻第14号)		4,050部	日本郵便による 助成
7月15日	おたがいさま新聞2013第7-8月号(通巻第15号)		4,268部	
8月10日	おたがいさま新聞2013第8月号(通巻第16号)		4,268部	
9月5日	おたがいさま新聞2013第9月号(通巻第17号)	伊達郡桑折町内(町内全戸、役場、公民館、郵便局、銀行、スーパー、商店等)、 福島市内、二本松市、本宮市、川俣町の応急仮設住宅借上げ住宅自治会、 支援活動情取材者等、浪江町民生児童委員、 相双自治会連合会、二本松市借上げ住宅自治会	4,308部	↓
				(継続)

4. 三菱商事復興支援財団 2012 年度復興支援助成金

「市民公益活動・NP0 後方支援プロジェクト」

目的: 原発事故により避難が長期化し、生活再建や地域の復興に向けた課題が山積みする中、自ら市民活動団体を興して課題を解決しようとする人々や活動を始めた団体等に対し、組織・人材育成や運営のための後方支援を行うことを目的としています。

◆事業実施期間:2012 年 6 月 1 日～2013 年 3 月 31 日

◆事業費:244 万円→上記期間中の決算額 1,976,000 円(残額 464,000 円)

※2013 年 4 月 1 日～9 月 30 日までの同事業に対し、残額内での助成が決定(13 年 10 月 22 日)
約半分(23 万円程度)を年度下半期の NP0 後方支援 PJ の経費として計上する予定です

◆事業のための人材費確保:1 名(相談業務や講座の企画運営等に従事)

◆主な事業内容

(1) NP0 よろず応援・相談「萬屋」—団体設立や協働への取り組み等の問合せや相談
福島事務所での電話相談や来訪、定期的な巡回相談等による窓口対応・相談、支援活動のコーディネートやマッチング等の業務

(2) NP0 自立・運営セミナー「寺子屋」—震災復興への取り組みを行う組織・人材育成
NP0 組織運営講座(NP0 法人設立や組織運営、NP0 会計基準、合意形成(ワグジョブ 技法)等)を 12 回開催/NP0 現地調査研修 2 回開催

(3) NP0 オーダーメイド支援「誂え屋」—企画書や助成金申請書、事業報告や広報等、組織運営に必要な業務に対する個別支援



個別支援「誂え屋」会計相談の様子

成果:「萬屋」や「誂え屋」を設けたことにより、じっくりと問合せ・相談業務に取り組めたこと。加えて、「寺子屋」による勉強会から NP0 と自治体、県社協との「NP0 法人設立・運営ガイド」協働制作プロジェクトをスタートさせることが出来ました。

ふりかえり

■取り組みの実績と成果

1. 萬屋…対応件数 26 件(継続中の相談もあり)/活動グループに対する助成金説明会 1 回

2. 寺子屋…講座等の開催 10 回/NP0 現地調査研究 2 回(福島市「ふらっ〜と茶の間」、南相馬市市民活動サポートセンター)

・いっぺん聞いとこ講座「改正 NP0 法のツボ」:8 月 2 日(20 名、17 団体)

・NP0 による・NP0 のための・改正 NP0 法に則った「NP0 法人設立・運営ガイド※」協働制作プロジェクト:連続 5 回(2012 年 11 月 8 日、12 月 13 日、2013 年 1 月 10 日、2 月 7 日、3 月 7 日)

第 1 回:ゲストによる話題提供「NP0 を取り巻く環境や現状について」

講師:岡本直樹さん(内閣府政策統括官(経済社会システム担当)付参事官)

第2回～第5回:「※ふくしまガイド」コンテンツ制作会議(主としてWS形式)

「兵庫県・神戸市 NPO 法人設立運営ガイド(神戸ガイド)」を元に福島県向けのガイドを研究、協議

・いっぺんやってみましょ講座「かんたん会計のツボ」:3回

(2012年12月16日、2月2日、2月16日)

・特別実践講座「かんたん会計のツボ」(NPO 法人青空保育たけの子)

3. 誂え屋…団体数5件(法人設立総会及び認証申請書類へのアドバイス等/各団体複数回)

■今後の課題や見通し

・福島事務所の他に、山形県米沢市とその周辺、宮城県仙台市及び仙南地域での相談会の実施を予定しましたが、計画通りに開催出来なかったことが大きな反省点でした。

・福島事務所における問合せ・相談業務(電話やメール、訪問等)の約3割は支援活動のコーディネートや専門家や専門性の高いNPOへのマッチング業務等であり、ほとんどの案件が複数回に及んだことから、窓口業務の一端を担えるスタッフを育成する必要があります。

・相談を受けながら具体的な支援に結び付かなかったケースもあり、問合せ・相談業務の運営体制の整備が求められています。

・「寺子屋」の活動を通じて行ったNPO組織基盤強化と人材育成への取り組みは、今後も自主事業(ふくしま復興塾)や助成事業等を通じて継続していきます。

5.NPO法人ジャパン・プラットフォーム(以下、JPF)「共に生きる」ファンド

「東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故からの復興支援

“いつもの暮らしに戻ろう”プロジェクト」

目的:仮設住宅や借上げ住宅で暮らす避難者を対象に、当法人が所有するDVDによる映画上映会を開催することによって、長期化する避難生活の中にあっても心の潤いや安らぎを感じて頂き、避難者同士の交流やつながり、孤立防止等「こころのケア」支援活動を目指します。

- ◆事業実施期間:2013 年 1 月 1 日～3 月 31 日(3 ヶ月間)
- ◆事業費:495,500 円→決算額 461,433 円(33,567 円返金)
- ◆事業のための人材確保:人件費は計上しない(映画上映会は役員が実施)
- ◆主な事業内容:県北地域で避難生活を送る浪江町民等を対象に、仮設住宅集会所等で映画上映会を月 10 回程度、3 ヶ月間行い、1 回あたり 20～30 人の参加、のべ 750 人への支援活動を目指す
- ★この事業は、JPF「共に生きる」ファンドへの本格的な事業提案の足掛かりとして取り組みました。

成果:4ヶ所の会場での短期集中的な上映会となりましたが、桑折町では当法人現地スタッフを中心に、2013 年 4 月以降、自主的かつ定期的(月 1 回)に上映会が開催できるようになったことが大きな成果でした。

ふりかえり

■取り組みの実績と今後の見通し

- ・映画上映回数は 23 回(達成率 約75%)。また参加人数も 750 人としていましたが、その 50%に留まりました。計画では活動現場を広域(伊達郡～二本松市周辺の県北地域北部)に設定していましたが、支援活動が少ない土日曜・祝日に開催予定を組むこととなり、伊達郡と福島市の実施に集中せざるを得なかったことが主たる要因でした。
- ・映画はいわば“敷居の低い”楽しみとして受入られること、少ない人数と操作のしやすい設備(プロジェクターとスクリーン、DVD 再生機器等)で活動できることがあり、取り組みやすい支援ではありますが、定期的な上映を継続しないと催事としての定着が難しく、工夫する必要があります。

NPO法人ジャパンプラットフォーム「共に生きる」ファンド
 東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故からの復興支援“いつもの暮らしに戻ろう”
 プロジェクト「映画の時間ですよ」上映一覧

開催日(曜日)	場所	上映作品	参加人数
1月25日(金)	福島市笹谷東部応急仮設住宅東集会所	「巴里のアメリカ人」	20名
1月26日(土)	当法人ワーキングスペース	「アリス・イン・ワンダーランド」	6名
2月9日(金)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	「麗しのサブリナ」	20名
2月26日(火)	伊達郡桑折町桑折駅前応急仮設住第2宅集会所	「素敵な金縛り」	17名
3月3日(日)	福島市北幹線応急仮設住宅南集会所	「釣りバカ日記8」	25名
		「フラガール」	18名
3月6日(水)	桑折駅前応急仮設住第2宅集会所	「真夜中の弥次さん、喜多さん」	26名
3月10日(日)	北幹線応急仮設住宅南集会所	「男はつらいよ 柴又より愛を込めて」	13名
		「THE有頂天ホテル」	12名
3月11日(月)	桑折駅前応急仮設住第2宅集会所	「テルマエロマエ」	14名
3月12日(火)	桑折駅前応急仮設住第2宅集会所	「食堂かたつむり」	14名
3月19日(火)	桑折駅前応急仮設住第2宅集会所	「釣りバカ日誌8」	18名
3月20日(水)	桑折駅前応急仮設住第2宅集会所	「ハンサム☆スーツ」	16名
3月20日(水)	北幹線応急仮設住宅南集会所	「赤い夕日の渡り鳥」	18名
		「寝ずの番」	13名
3月22日(金)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	「紅の豚」	9名
		「新しい人生のはじめ方」	5名
3月24日(日)	北幹線応急仮設住宅南集会所	「わが母の記」	20名
		「テルマエ・ロマエ」	17名
3月27日(水)	桑折駅前応急仮設住第2宅集会所	「鬼平犯科帳シーズン1」	23名
3月28日(木)	桑折駅前応急仮設住第2宅集会所	「マンマミーア」	6名
3月29日(金)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	映画上映会「THE有頂天ホテル」	9名
		映画上映会「崖の上のポニョ」	8名
		23回上映 延べ347人参加	

<助成事業>

1.住友商事(株)東日本再生コースチャレンジプログラム 2013 活動・研究助成

「つながる・伝える・考える」活動の中で学ぶ 復興支援推進プロジェクト(通称 つなかん PJ)

目的:

○“学生力”のアップ

―震災直後の体験をしていない若い学生たちへ組織と活動をつなぐ仕組みづくりを目指す

福島大学災害ボランティアセンター(以下、福大災ボラ)の立ち上げから運営を担ってきた学生たちは 2014 年春に最後の卒業生を送り出すため、震災当時から積み上げてきた支援活動等のノウハウや当時を全く知らない後輩たちに引き継ぐ転機を迎えます。

昨年度(2011 年度)取り組んだ「ひと・つ PJ」を通じて活動の連携を図れるネットワークも生まれつつあり、これまでの成果を生かしながら福大災ボラの主要メンバーを中心とした学生たちが、ボランティア・コーディネイトに対するマネジメント力や組織基盤強化のための実践的な学びを通して、次世代の福大災ボラのパワーアップを図ります。

○調査事業の追加と継続―より充実した DB 化を目指す

「支援情報ステーション」の充実を図るために、昨年度に調査していない地域(県南、会津地方等)や、情報が少ない県外地域の支援活動情報の収集を行います。同時に電話取材等による情報更新も行い、精度の高い DB 化に努めます。

◆事業実施期間:2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日

◆事業費:300 万円

◆事業のための人件費確保:学生スタッフ 3 名(月 10～12 日程度)・パートナーズ 1 名(週 1 回程度・支援情報更新のための調査、入力作業等)

◆主な事業内容と目標

(1)「活動の中で学ぶ」(福大災ボラの後継者等人材育成)

- ・「学生ボランティア・コーディネーター実践育成研修(以下、学生 V.Co 研修)」として、NPO 活動団体事務局或いは活動現場での研修を受入れて頂き、復興支援活動におけるコーディネート力や支援プログラムのスキルを磨くこと(目標は、5 団体×2 回程度)
- ・復興支援活動に取り組む組織として、福大災ボラが備えておくべき知識やスキルを、講座等の研修によっても学ぶこと(会計や事業報告、プランニングや助成金申請等)

(2)「つながる・伝える・考える」(調査活動の追加・継続)

- ・これまで情報が少なかった福島県県南及び会津地域、宮城県仙南地域を重点的に調査すること(本調査 20 団体)。また並行して、昨年度調査し DB 化した 177 団体※に対し、メールや電話等で情報更新を図ること



つなかんPJメンバーと事務局

※ひと・つ PJ 年次レポート(調査レポート)に掲載した団体全て

この中には、昨年度「支援情報ワンストップサービス化推進のための組織基盤強化」事業で取り組んだ、避難する浪江町民を支援する市民活動団体等も含まれています

・支援活動団体の窓口となっている仮設及び借上げ住宅自治会への取材活動等を通じて関係を深め、変化する多様な支援ニーズを把握すること

(3)「伝える・語り部になる」(「3.11 福大災ボラ×避難の皆さん再開の集い」)

2014 年 2 月～3 月初旬を予定し、双葉郡から避難した方々や復興支援や NPO 活動団体等を対象に、今後の福大災ボラの支援活動へ向けた交流会として開催すること

これまでの実績

1.「活動の中で学ぶ」

①学生 V.Co 実践育成研修

・NPO 法人いいざかサポーターズクラブ

「茂庭っ湖自然体験プロジェクト・地域交流」事業(現場での活動)



富岡町民自治会・親睦会 集合写真

8 月 17 日:「福島市・県北地区富岡町民自治会」親睦会に対する場所提供及びスタッフの派遣 (自治会 24 名/PJ3 名、福大災ボラ 9 名、桑折町社協 2 名、中学生ボランティア 6 名、パートナーズ 2 名)

・NPO 法人いいざかサポーターズクラブ

「子ども冒険遊び場プロジェクト」プレリーダー育成事業(講演会及び現場での活動)

8 月 4 日:飯坂学習センター/講師 天野秀昭さん(NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会 理事)

9 月 22 日:もにわプレーパーク 2 回共(PJ1 名、福大災ボラ 2 名)

・避難者支援センターにおいて「県外避難者支援プロジェクト」(現場での活動)

8 月 4 日:米沢 10 円バザー(会場整理や商品運搬、レジ会計等の手伝い、県外避難者への取材等)

(PJ1 名、福大災ボラ 6 名)

・当法人の復興支援活動事業「うわまち交流ひろば」(現場での活動)

9 月 17 日:筆ペン教室(PJ1 名)

9 月 21 日:福島まちなか・ちょこっと散歩(PJ1 名、福大災ボラ 1 名)

②組織基盤強化のための講座/講師:松田英明さん(企画マネジメント研究会 代表)

「会計事務の基礎」

8 月 7 日:複式簿記一勘定科目と仕訳一/8 月 8 日:仕訳日記帳ではじめるカンタン会計

2.「つながる・伝える・考える」

調査活動の追加・継続:福島県内(県内、会津地域)と宮城県仙南地域等 15 団体の新たな調査及びデータ作成が終了。(復興支援情報ステーションへのアップ待ち)

3.「伝える・語り部になる」 交流会の開催に向けた準備は秋以降に着手する予定です)

※9 月 28 日～29 日「住友ユースチャレンジ・フォーラム 2013」に参加。(両日、学生 3 名)

29 日のシンポジウムでは、PJ チームリーダー川村遼君がパネリストとして登壇しました。

2. 日本郵便(株)平成 25 年度年賀寄付金配分事業

借上げ住宅避難者のための「交流ひろば」開設と

自治会とコミュニティの支援プロジェクト(通称 コミュプロ)

目的:

・福島県県北地方の借上げ住宅等で避難生活を送る方々に、震災及び原発事故以前のよう
な“いつもの暮らし”や心の潤いを少しでも取り戻して頂くために支援プログラムを通じて
生活再建や自立に向けた後方支援を行います。

・点在する借上げ住宅でのコミュニケーション不足による孤立を防止し、利用し易い交流拠
点を創るため、交流の場を確保。(福島市の中心市街地にある当法人事務所が入るビル内)
市内に点在する借上げ(みなし仮設)住宅の方々の交流拠点づくりや、借上げ住宅自治会
の支援サポート等、個々に分断されがちな借上げ住宅への避難者のコミュニティ支援を中
心として支援の手が入り難い避難生活者の生活再建支援に取り組みます。

◆事業実施期間:2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日

◆事業費 4,991,015 円

◆事業のための人件費確保:3 名(福島事務所・常勤 1 名、現地スタッフ 2 名)

◆主な事業内容と目標

(1) 交流ひろばの開設(月 20 日程度の継続的利用を想定)

①いつもの暮らしに戻るプログラム

・こころのケア(毎週1～2回、月6回程度/数値目標:年間
200 人程度)

一絵手紙教室や地域のまちあるき、手芸などの講座開催、収
蔵 DVD の上映会など

・生活再建困りごと相談

(専門家等による相談窓口の開設:毎週1回、月4回程度/数値目標:年間 120 人程度)

②自治会支援プログラム

・自治会サポートセンター(マネジメントセミナー:月1回、事務局サポートサービス:随時)

(数値目標:マネジメントセミナー年間 60 人程度、自治会サポート年間 20 件程度)

③コミュニティ支援プログラム

・借上げ住宅避難者等への集会所・会議室の開放(随時[事前予約制]週2日:月8回)

・福島大学災ボラ等との連携による支援活動の受け入れ活動(月2回)

(数値目標:交流ひろば、会議室等利用件数 年間 60～65 件程度、現場訪問件数 月9回程度)

④交流ひろば季節のイベント(年4回程度:他団体との連携による観桜会や芋煮会等の開催)

(2) 支援情報の収集・発信

・仮設住宅や支援団体を訪問しての取材活動(週 2 日:月 9 日程度) ※主にひろば開放日

・「おたがいさま新聞」(拡充版)の発行(月 1 回程度 5,000 部発行:事業予算計上分 10 回)

配布エリアの拡大(伊達郡桑折町→桑折町+福島市・二本松市・本宮市等県北部)



おやつ会議第 1 回の様子

情報収集・発信の対象(仮設住宅の避難者→仮設住宅+借上げ(みなし仮設)住宅避難者)

(3)Web 情報・DB「支援情報ステーション(既設)」への情報の蓄積・追加公開

日本郵便(株)年賀寄附金配分 「借上げ住宅避難者のための“交流ひろば”開設による自治会とコミュニティの支援プロジェクト」 主な実績				
		※当法人現地スタッフが中心となって進めた支援活動(経費等は発生していません)		
日付		場所	活動/支援団体等 内容	参加人数
2013年 4月	14日(日)	福島市北幹線応急仮設住宅北集会所	映画上映会「べらんめえ芸者」	2名
		福島市北幹線応急仮設住宅北集会所	映画上映会「十三人の刺客」	2名
	25日(木)	伊達郡桑折町桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画上映会「鬼平犯科帳シーズン1」	13名
	26日(金)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画上映会「新しい人生のはじめ方」	6名
		福島市笹谷東部応急仮設住宅集会所	映画上映会「おっぱいソバレー」	15名
	28日(日)	桑折町	桑折宿郷トラ市(コスモス手づくりの会出展)	約50名
5月	22日(水)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画上映会「武士の家計簿」	9名
	23日(木)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画上映会「男はつらいよ 柴又より愛をこめて」	21名
	31日(金)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	映画上映会「めぐり逢い」	14名
6月	21日(金)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	映画上映会「寝ずの番」	18名
	27日(火)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画上映会「小説家をみつけたら」	4名
	28日(金)	桑折町	桑折ちよこつと散歩 半田銀山方面 案内人:佐藤善治さん(桑折町文化財保存会会長)	24名
		※笹谷東部 バスツアー	会津美里町「新鶴温泉健康センター」と伊須美神社詣り	30名
	29日(土)	福島市	福島まちなか・ちよこつと散歩 案内人:江代正一さん(福島郷土歴史研究家)	6名
	30日(日)	桑折町無能寺	無能寺写経会	35名
7月	12日(金)	うわまち交流ひろば(パートナーズ事務所)	映画上映会「オペレッタ狸御殿」	2名
	25日(木)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画上映会「寝ずの番」	21名
	26日(金)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	映画上映会「フラガール」	17名
	27日(土)	北幹線応急仮設住宅北集会所	映画上映会「北のカナリアたち」	10名
	29日(月)	桑折町	桑折ちよこつと散歩 伊達崎ダリア園他2時間コース 案内人:佐藤善治さん	25名
8月	16日(金)	北幹線応急仮設住宅南集会所	映画上映会「あなたへ」	3名
	18日(日)	無能寺	無能寺写経会	35名
	21日(水)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画上映会「ニッポン無責任時代」	13名
		うわまち交流ひろば	おやつ会議「手みやげマップをつくろう」 案内人:古山郁(当法人理事)	4名
	22日(木)	うわまち交流ひろば	映画上映会「たそがれ清兵衛」	2名
	30日(金)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	映画上映会「千と千尋の神隠し」	5名
		笹谷東部応急仮設住宅東集会所	映画上映会「テルマエロマエ」	19名
9月	5日(木)	うわまち交流ひろば	映画上映会「イングリッシュ・ペイシエント」	2名
	8日(日)	県男女共生センター(二本松市)	「未来館ネットワークフォーラム」 手づくりの会2団体参加(友夢クラブさん、チーム郭内さん)	9名
	17日(火)	うわまち交流ひろば	筆ペン教室 講師:本間美雪さん	4名
	20日(金)	※笹谷東部	笹谷ちよこつと散歩―自転車で美術館へ	4名
	21日(土)	福島市	福島まちなか・ちよこつと散歩 もみじ山公園他歴史散策 案内人:江代正一さん	5名
	22日(日)	無能寺	無能寺写経会	35名
	26日(木)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画上映会「笑いの大学」	12名
	27日(金)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	映画上映会「王様と私」	12名
		桑折町	桑折ちよこつと散歩 町境「葛の松原」バスで出掛けるコース 案内人:佐藤善治さん	30名
			延べ518人参加	

3. ★住友商事(株)東日本再生ユースチャレンジプログラム 2013 インターンシップ奨励プログラム

「考える・動く・伝える」復興支援情報ステーション運営サポートプロジェクト

(通称 運サポPJ)

★同プログラム活動研修事業「1. つなかんPJ」での活動がきっかけとなり、住友商事(株)及び
NPO 法人市民社会創造ファンドから事業受入を勧められ、インターン受入団体となりました。
(福島県内4団体・インターン生6名)

目的:ユース(主に大学生、大学院生等)が自発的かつ意欲的に、被災地で活躍しているNPO
で長期に亘るインターン活動を通して、東日本大震災で被災した地域の再生過程に取り組
むことを応援します。また、インターン活動に参加した学生自身が学び、成長する機会とな
るとともに、インターン受入団体もまた若者の人材育成を学ぶ機会とします。

◆事業実施期間:2013年7月1日～2014年3月31日(9ヶ月)

◆事業協力費:27万円(月3万円×9ヶ月 受入団体指導補助費として)

※インターンに対する補助費は住友商事(株)から800円/時×上限300時間/年

その他、通勤交通費や活動研修費(2万円迄)、保険等が直接支払われる

◆事業のための人材確保(2名の指導、サポート):

スーパーバイザー・松田英明理事、メンター・古山郁理事

◆受入れたインターン生:桜の聖母短期大学1年生 河治さやかさん(19歳)

◆主な事業の内容と目標

(1)NPO 後方支援PJで進める、NPO法人設立・運営ガイド協働制作PJのサポート

・「ふくしまガイド」編集・制作一草稿や図版類を整理(場合によっては資料検索)

・協働制作PJメンバーとの協議の場のサポート(原稿作成・編集等に関するやり取り)

(2013年10月頃から開始、2014年3月ガイドの完成→HPへの掲載)

(2)復興支援活動事業(つなかんPJやコミュプロ)で行う諸活動への参加とサポート

積極的に参加機会を提供すること

(3)研修機会の提供—NPOへの理解とインターン活動を深めるための研修を行うこと

(福島県内受入団体のインターン生にもML等で呼びかけている)

これまでの実績

・勤務状況 94時間(7月:31時間 8月:40時間 9月:23時間/毎週水曜日3時間を基本として)

・主たる活動

「ふくしまガイド」の原稿等整理作業、県内NPO法人活動報告書に関する資料作成等

・復興支援活動への参加

7月27日:福島市北幹線応急仮設住宅集会所における映画上映会の手伝い

8月17日:富岡自治会懇親会の支援(協力連携団体と共に活動の手伝い)

・研修:7月27日「NPOのキノの基礎」(約90分)講師:松田英明さん(企画マネジメント研究会代表)

＜補助金交付事業＞

福島県産農林水産物PR支援事業

「ふくしま応援－美味しいプチマルシェin世田谷梅ヶ丘」

目的:福島県の食材等に対する風評被害が未だに収まらない中、首都圏の代表的な住宅地である世田谷区梅ヶ丘(小田急沿線)において、地元NPO等が復興支援の一環として開催する「プチ・マルシェ」に参加することにより、県産農産物及び農産加工品等のPRを図ります。

同時に、パートナーズの活動への理解と賛同を訴求しながら、寄付の募集も行います。
(認定 NPO 法人取得に向けて 3,000 円×100 人以上)

◆NPO 法人 50 カラット会議(活動拠点:東京都世田谷区梅ヶ丘)との共催

復興支援活動の一環として開催する「プチマルシェ」に、当法人が県産品を携えて参加します

◆事業実施期間:2013 年 10 月～2014 年 3 月 ※2013年9月に採択され、既に活動を開始

◆事業費:50 万円

◆事業のための人材確保:人件費は計上しない(当法人 PR、寄付募集活動も同時に行う)

◆主な事業内容と目標:「プチ・マルシェ」3 回の開催に参加し、主なターゲットである 50～60 代の主婦に対して福島県産食材の美味しさと安全をアピールする等、口コミによる風評被害の払拭を目指します。同時に、福島県産食材を用いた料理研究家によるコーディネート料理の試食提供も行い、参加者同士や NPO との交流促進や県農産物等への理解を深めることを目的とします。

第1回 2013 年 11 月 8 日:福島の伝統の美味しさを味わう会(新米、ごはんのお供)

第2回 2013 年 12 月 6 日:福島の素材で楽しむ師走の会(川俣軍鶏、冬の果物)

第3回 2013 年 2 月 7 日:福島の冬を越す知恵を知る会(あぶくま鍋、他)



2012年度 事務局の記録(月例役員会 資料等から)

福島事務所の様子について

NPO 活動に関する情報交換や復興支援活動の取材のために訪問される団体が殆どでした。
(相談業務として NPO 後方支援PJの事業実績に上げた要件等は外しています)

主要な訪問とその要件等			
日付	団体名(氏名)等	要件	応対者
2012年 10月5日(金)	NPO法人 市民社会創造ファンド(霜田さん)	インターンシップ助成について取材・意見交換	理事 古山 郁
10月10日(水)	NP法人福島県SOHOベンチャー・テレワーカー 共働機構 (曳地さん)	仮設住宅の起業支援についての取材	理事 古山 郁
10月23日(火)	福島県中地域NPOネットワーク なかネット	「ふくしまガイド」協働制作PJに対する意見交換	理事 古山 郁
10月24日(水)	NPO法人わかやまNPOセンター 志場久起さん	懇談会	松田英明、佐藤玲子、 古山郁 理事
11月1日(木)	NPO法人 ジャパン・プラットフォーム(菊田さん)	「共に生きるファンド」申請事業へのアドバイス	理事 松田英明、古山郁
12月5日(水)	安倍由美子さん	市民活動団体設立相談	理事 古山 郁
12月15日(土)	ふくしまほとと Hart 倶楽部 板垣さん、加藤さん	(NPO法人格を含めた)公益法人設立相談	理事 古山 郁
12月17日(月)	福島市なみえ会 会長 伊藤暢秀さん	新春の交流会 助成金申請及び開催準備等の相談	理事 古山 郁
2月13日(水)	ふくしま連携復興センター(伴場さん)	連復シンポジウム パネルディスカッション打合せ	理事 古山 郁
2月22日(金)	NPO法人 うつくしまブランチ(掃部さん)	桑折ちよこと散歩(パートナーズ)の被災者支援活動)取材	理事 古山 郁 事務局 佐藤耕平
4月12日(金)	一般社団法人ふくしまホットハート夢倶楽部(板垣さん)	オープニングイベント報告、これからの組織体制等 についての相談	理事 古山 郁
5月3日(金)	チームひふみ(武蔵野美術大環境デザインクラス3年生) 角田能経、飛鳥馬加央里、亀田若菜花、森本純愛、辻岡翔	デザインによるコミュニティ支援活動の可能性、課題 について取材	理事 古山 郁
5月7日(火)	NPO法人 いいざかサポーターズクラブ(佐藤耕平さん)	都市農村共生・対流総合対策交付金(農水省) 申請書へのアドバイス	理事 古山 郁
5月8日(水)	NPO法人 青空保育たけの子(逸見妙子さん)	所属する「子どもたちを放射能から守るネットワーク」 規約の修正の相談 ふくしまキッズ夢サポート事業申請書へのアドバイス	理事 古山 郁
5月8日(水)	NPO法人 コースター(岩崎大樹さん)	新しい公共支援事業(福島県)への連携でき ないか等の相談	理事 古山 郁
5月9日(木)	福島市なみえ会 会長 伊藤暢秀さん	近況についての情報交換、コミュプロ(日本郵便助成事業) に対する協力を要請(当法人)	理事 古山 郁
6月9日(日)	みんなでまちかど公共研究所(工藤寛之さん)	県委託事業(県サボ、NPO基盤強化)に対する連携・協力 について	理事 松田英明、古山郁
7月19日(金)	NPO法人福島ライフエイド(宇津木政人さん)	福島市補助金交付事業応募に関して助言要請 ※8月19日には農業法人設立相談	理事 古山 郁
7月29日(月)	ふくふく会議(相澤義和さん)	これからの同会議についての意見、提案等の聞き取り	理事 古山 郁
8月9日(金)	ふくしま連携復興センター(遠山賢一郎)	県男女共生センター・手仕事フェア(説明と要請) 連復の定例会と分科会の進め方及び「吹く島」の食に 関するページについての意見交換	理事 古山 郁
8月22日(木)	NPO法人ドリームサポート福島(阿部尚俊さん)	イベントで調理をしてくれるグループの紹介依頼 NPO会計の基本的講座要請	理事 古山 郁
8月26日(月)	ふくしま連携復興センター(鎌田千瑛美さん)	れんぶくとパーソナルセンター協働による復興支援 調査事業への協力依頼 仮設住宅住民の苦情や仮設住宅アセスメント調査に ついて意見交換	理事 古山 郁
9月12日(木)	出口武司さん(東開クレテック(株))	野田小バザー店番ボランティア募集結果の確認 NPO法人経済活動活性化及び職業能力開発・雇用 機会拡充支援に関わる法人の経済収入昨年度に關する 情報提供依頼	理事 古山 郁

事業提案を行った助成金申請先とその結果について

10 件の事業提案を行い、採択は約 5 割でした。助成事業の審査もだんだん厳しくなってきたことが推察できます。

事業提案等を行った助成金申請先とその結果について			
助成事業名/提案事業名	申請先	提出日	結果
「東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故からの復興支援 “いつもの暮らしに戻ろう”支援プロジェクト」 「共に生きる」ファンド	NPO法人ジャパン・プラットフォーム	2012年 12月7日	採択
東日本再生ユース・チャレンジプログラム2013 「つながる・伝える・考える」活動の中で学ぶ 復興支援活動推進プロジェクト」	住友商事株式会社(環境CSR部)	12月11日	採択
東日本再生ユースチャレンジプログラム2013インターンシップ奨励プログラム 「復興支援情報ステーション運営サポートプロジェクト」	住友商事株式会社(環境CSR部)	2013年 3月7日	採択
「“できる”情報発信・ホームページのリニューアルと運営サイトづくり ～広く・伝える・遠くまで～」	認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター	3月31日	申請中止
2013年復興支援助成金 「NPO後方支援プロジェクト 中間支援ver.」	公益財団法人 三菱商事復興支援財団	4月11日	不採択
福島県緊急雇用創出事業 起業支援型地域雇用創造事業 「“地域の手仕事”発掘・支援プロジェクト」	福島県	5月24日	不採択
福島県委託事業 「NPO法人等活動基盤強化 ・中間支援NPO法人等支援機能強化事業」	福島県	6月10日	不採択
福島県産農林水産物PR支援事業 ふくしま—応援美味しいブチ・マルシェ—in世田谷梅ヶ丘	福島県	8月16日	採択
東日本大震災復興支援 JT NPO応援プロジェクト	日本たばこ産業株式会社	8月14日	不採択
組織力向上サポート 「目指せ 認定NPO法人！ホップ・ステップ・ジャンププロジェクト」	認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター	9月25日	採択
三井生命(株)PC寄贈プログラム ※PC5台の寄贈申請書	三井生命株式会社	2013年 7月9日	寄贈決定

各種会議・研修等への参加について

2012年度も、理事と共に、事務局スタッフ(特に、ひと・つPJやつなかんPJに関わる学生スタッフ)には、復興支援活動に関する情報交換や緩やかな連携の場を目的に掲げる会議には、積極的に出席を促しました。

また、特に(特活)日本NPOセンター「NPO・市民活動団体育成強化プロジェクト」が行う組織基盤強化に関する研修等には、古山郁理事が全て参加しています。(2014年6月末まで活動)

◆主な会議、シンポジウム、視察等

会議(単発)やシンポジウム・視察等				
	名称(主催)	日付	場所・会場等	参加者(敬称、略)
会議等	まなびピア2012福島分科会	2012年 11月10日(土)	コラッセふくしま	理事 古山 郁
	新潟NPO協会設立10周年記念シンポジウム 「21. 5世紀フォーラムinにいがた」	2013年 5月12日(日)	特定非営利活動法人 新潟NPO協会	理事 古山 郁 理事 松田 英明
	一般社団法人ふくしまほっとはーと夢倶楽部イベント	7月28日(日)	一般社団法人 ふくしまほっとはーと夢倶楽部	理事 古山 郁
	東日本大震災生活復興PJ第1回円卓会議	7月30日(火)	こむこむ	理事 古山 郁
	「寄りあいNIPPON—東北から日本の未来を創造する円卓会議」	9月11日(水)	仙台国際センター	理事 古山 郁
	地域創造基金みやぎ2周年記念イベント	9月21日(土)	TKP仙台カンファレンスホール	理事 古山 郁
	東日本再生ユースチャレンジプログラム シンポジウム	9月29日(日)	TKP仙台カンファレンスホール	理事 古山 郁 理事 松田 英明
視察(オブザーバー参加)	3.11被災者を支援するいわき連絡協議会(通称みんぶく)円卓会議視察	10月3日(水)	いわき中央台公民館	理事 古山 郁
ボランティア募集説明会	福島学院大学ボランティア説明会	5月13日(月)、14日(火)	福島学院大学駅前キャンパス	理事 古山 郁 事務局 阿部 美奈
	桜の聖母短期大学ボランティア説明会	5月20日(月)～23日(水)	パートナーズ事務所	理事 古山 郁 事務局 阿部 美奈

会議(定例会)やシンポジウム等視察					
(関係性)	事業・主催等	会議の名称	日付	場所・会議等	参加者(敬称、略)
連携	一般社団法人 ふくしま連携復興センター (ふくしま連携)	シンポジウム(パネリストとして登壇)	2012年 10月2日(火)	郡山市市民文化センター	理事 古山 郁
		月例会議	10月29日(月)	二本松市市民交流センター	理事 古山 郁
		連携ワークショップ(復興支援活動分析)	11月6(火)、13日(火)	コラッセふくしま	理事 古山 郁
		臨時総会	2013年 1月18日(金)	郡山市音楽文化交流館	理事 古山 郁
		月例会議	4月23日(火)	二本松市市民交流センター	安田 芳樹、川村 遼 樋山 詩乃、本間美雪
		月例会議	5月28日(火)	郡山市音楽文化交流館	理事 古山 郁
		月例会議	7月24日(水)	二本松市市民交流センター	理事 古山 郁
		第2回通常総会	8月28日(水)	郡山市音楽文化交流館	理事 古山 郁
	ふくしまNPO・市民活動団体連携復興 プロジェクト会議 (ふくふく会議)	ふくふく会議総会	2012年 10月28日(日)	福島市市民活動サポートセンター	理事 古山 郁
		ふくふく会議	2013年 8月30日(金)	福島市市民活動サポートセンター	理事 古山 郁
		ふくふく会議総会プロジェクト幹事会	9月28日(土)	福島市市民活動サポートセンター	理事 古山 郁
	東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)	福島県社会福祉協議会ボランティア活動推進委員会	2013年 8月27日(火)	福島県男女共生センター	理事 古山 郁
		第4回現地会議in福島(二本松市)	2012年 11月28日(水)	二本松市市民交流センター	理事 古山 郁 ひと・つPJ 土谷 一貴
		第6回現地会議in福島(南相馬市)	2013年 6月21日(金)	南相馬市市民文化会館	理事 古山 郁
連携 CSB支援	けんぽく6次化ミーティング ・クラスター分科会に伴う活動	福島県農林水産部農産物流通課「農の6次化交流会」	2013年 3月18日(月)	杉妻会館	理事 古山 郁
		県農林水産部「農の6次化交流会・シンポジウム」	7月6日(土)	会津大学 大講義室	理事 古山 郁 理事 松田 英明
協力 (委員として)	福島市子どもの権利条例制定推進会議 (福島県ユニセフ協会)	ワーキング会議	2012年 10月24日(水)	福島県ユニセフ協会事務所5F	理事 古山 郁
		ワーキング会議	11月28日(水)	福島県ユニセフ協会事務所5F	理事 古山 郁
		全体会議	12月4日(火)	福島県ユニセフ協会事務所5F 会議室	理事 古山 郁
		全体会議	2013年 3月6日(水)	福島県ユニセフ協会事務所5F	理事 古山 郁
	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 NPO法人 日本ボランティアコーディネイト協会	生活支援コーディネーターのためのハンドブック製作委員会 第4回HB作成委員会	2012年 12月5日(水)	福島県総合社会福祉センター (県社協)研修室	理事 古山 郁
		第5回HB作成委員会	2013年 1月24日(水)	福島県総合社会福祉センター (県社協)研修室	理事 古山 郁
	社会福祉法人福島県社会福祉協議	平成25年度ボランティア活動推進委員会	2013年 8月27日(火)	福島県男女共生センター	理事 古山 郁

◆研修等、主な学びの機会

NPO法人日本NPOセンター NPO・市民活動団体育成強化プロジェクト(組織基盤強化)				
主催	研修	日付	場所・会場等	参加者(敬称、略)
認定NPO法人 日本NPOセンター NPO育成強化プロジェクト	福島情報交換会	2012年 12月4日(火)	いわき市生涯学習プラザ	理事 古山 郁
	追加研修+情報交換会	2013年 5月15日(水)、16日(木)	会津若松市	
	福島追加研修第2回	6月21日(金)	南相馬市民文化会館	
	福島追加研修最終	7月27(土)、28(日)	白河関の里	



上記PJ メンターによるコンサルティング、事業進捗状況インタビュー等				
2012年 10月25日(木)	NPO法人 わかやまNPOセンター(志場久起さん) NPO法人 日本NPOセンター(内山智子さん)	NPO育成強化プロジェクトでの組織運営の課題について取材や意見交換	理事 古山 郁	
2013年 2月5日(火)	NPO法人わかやまNPOセンター(志場久起さん)	NPO強化育成プロジェクト メンターサポート	理事 松田英明	
5月17日(金)	NPO法人わかやまNPOセンター(志場久起さん)	NPO強化育成プロジェクト メンターサポート	理事 古山 郁	
7月9日(火)	NPO法人わかやまNPOセンター(志場久起さん) 日本NPOセンター(内山智子さん)	NPO強化育成プロジェクトの一環—これまでの活動や中長期の事業計画について	理事 古山 郁	

研修(単発)				
主催	研修	日付	場所・会場等	参加者(敬称、略)
(一社)ふくしま連携復興センター・浪江町	浪江×NPO研修	2013年 3月15日(金)	二本松市市民交流センター	理事 古山 郁
福島大学経営戦略研究会	特別公開講座	9月14日(土)	福島市アクティブシニアセンター(AOZ)	